

薬物依存症者が回復するには家族がどうかかわるべきかを学んでいる「県薬物依存症者を抱える家族の会」が二十七日、長岡市の市立中央図書館でフォーラムを開く。薬

薬物依存症

物依存症の正しい知識を持つため、同会が初めて開催。「世間体を気にして抱え込んでいる家族は多い。一緒に勉強して回復しよう」と、参加を呼び掛けている。

正しい知識で回復を

県内の家族会 27日、長岡でフォーラム

悩み抱えず参加訴え

同会は二〇〇二年に発足。県立精神医療センター(同市)の家族教室で

知り合った依存症者の家族六組が、回復を促すための家族の接し方を学ぶ

ため集まった。現在の仲間は十四組。毎月第一月曜の午後七時から、同市健康センターで月例会を開き、体験を語り励まし合ったり、民間の薬物依存症者リハビリ施設「ダルク」の関係者を招いて勉強したりしている。

「それまでは正反對だった。親が手を出せば本人は同じことを繰り返す。そのうちに振り回される家族の方がおかしくなってしまつ」と、同じ状況の人たちに訴える。

「薬物依存は病気の一つ。本人や家族では治せない。社会の認識が変われば、世間体を気にすることなく、関係機関や家族会につながりやすい」と小西さん。一般市民を



秘密厳守で自由に意見交換をしている家族会の月例会。長岡市の健康センター

家族会世話人の小西憲さん(五七)川口町は四年前、息子が薬物依存症になった。当初は依存症と分からず、通院先で処方された抗うつ剤でさらに依存が進行。そんなとき、ダルクに出会い、万引や自殺未遂などが起きても、愛情を持って突き放す接し方が本人に自覚を持たせ、回復につながると知った。

「暮らしの手帖」連載料理エッセー出版
雑誌「暮らしの手帖」に三十五年以上にわたって



た「すてきなあなたに春夏」(暮らしの手帖社、七百八十円) 写真真が発売された。エッセー「すてきなあなた」は、暮らしの手帖に連載されている。料理の話題は年数がたっても新鮮。平沢まりさんのイラストも魅力

節の便りなどを無署名でつづった人気コーナー。中でも、食に関する話題は読者の関心も高いという。収録エッセーは百五十編。菜の花漬けや焼きイチョウなど、春から夏への季節感いっぱいレシピやエピソードを満載している。

「薬物依存は病気の一つ。本人や家族では治せない。社会の認識が変われば、世間体を気にすることなく、関係機関や家族会につながりやすい」と小西さん。一般市民を問い合わせは、090(8723) 3715、小西さん。

剤だけでなく、市販薬や病院の処方薬で症状を悪化させる人が多い。インターネットで薬物の情報が手に入るなど、身近に薬物依存の可能性が潜んでいる。最近では、睡眠薬への依存も深刻という。フォーラムは、ダルクの「磐梯リカバリーハウス(福島県)との共催。ダルク創設者の近藤恒夫さん、茨城ダルクケループ代表の岩井喜代仁さんの講演、薬物依存症者と家族の体験談発表など。午前十時～午後四時。会費千円。